

## 「パウロ、エルサレム教会に着く」

2016年08月24日

**使徒言行録 21章 15節～19節** 数日たって、わたしたちは旅の準備をしてエルサレムに上った。カイサリアの弟子たちも数人同行して、わたしたちがムナソンという人の家に泊まれるように案内してくれた。ムナソンは、キプロス島の出身で、ずっと以前から弟子であった。

わたしたちがエルサレムに着くと、兄弟たちは喜んで迎えてくれた。翌日、パウロはわたしたちを連れてヤコブを訪ねたが、そこには長老が皆集まっていた。パウロは挨拶を済ませてから、自分の奉仕を通して神が異邦人の間で行われたことを、詳しく説明した。

パウロのエルサレム行きに関して、ティルスでは、「霊」に動かされた人々から反対された。カイサリアでは、預言者アガボがパウロの帯で自分の手足を縛り、このように縛って異邦人に引き渡されると「象徴預言」をして反対した。アガボの象徴預言を見聞きして、人々は声を揃えて反対した。エルサレムでは、パウロが来れば必ず殺すというユダヤ人たちの激しい殺意があることは、いたる所で知れ渡っていたのである。しかし、パウロは「泣いたり、わたしの心をくじいたり、いったいこれはどういうことですか。主イエスの名のためならば、エルサレムで縛られることばかりか死ぬことさえも、わたしは覚悟しているのです」と言って、決意が揺るがないことを示した。人々は「主の御心が行われますように」と言って、口をつぐんだ。パウロはカイサリアでフィリポの家に数日滞在した後、エルサレムに上る旅支度をして、出発した。カイサリアの弟子たちも数人、同行した。途中、キプロス島出身で、以前から弟子であったムナソンという人の家に案内されて、泊まった。この道行はユダヤ人には知られないように、秘密裡であった。

パウロたち一行は、ようやくエルサレム教会に辿り着いた。教会の兄弟たちは喜んで迎えてくれた。翌日、パウロたちは旅を共にした仲間たちと一緒にヤコブを訪ねた。ヤコブは主イエスの弟で、エルサレム教会の重鎮として、教会を支えていた。ヤコブの所には、長老たちが皆、集まっていた。パウロは彼らに挨拶をし、久しぶりの再会を喜び合ったであろう。パウロは自分たちの宣教を通して、神が異邦人の間で行われた力強い業について、詳しく説明した。神が行われた宣教であると報告している。

使徒言行録の著者は、この時、異邦人教会からの支援金を届けたことについて、全く触れていない。パウロは使徒会議において、貧しい人たちのことを忘れないという付帯事項を心に留めていた。異邦人教会に対して、あなた方はエルサレム教会から霊的なものに与ったのだから、肉のもので助ける義務があると言って、募金活動を強力に進めた。更に、パウロ殺害の気運の高いエルサレムにあえて上って行った。エルサレム教会への支援は命をかけたものであった。献金授与に関する記述はないが、届けたことは確かである。

私は、こう思っている。パウロが私に「秋吉君、これをエルサレム教会に届けてくれ」と言われれば、私は喜んで届ける。そうすれば、パウロは捕らえられ、ローマに送られ、殉教することはなかった。そうなれば、パウロは望んでいたローマ教会を訪ね、そこからイスパニア宣教に向かうことができた。キリスト教史は変わったものになっただろう。パウロ自身がエルサレムに行かないで、他の弟子に託したらよかったのにと残念に思う。

パウロは、支援金を届けるだけでなく、エルサレム教会と異邦人教会との連帯、一致を確かめる目的を持って、強行したのではないかと想像する。